

## 1. 月経痛(生理痛)に対する漢方薬の使い分け

月経痛(生理痛)は、月経困難症の主な症状です。一般用漢方製剤の適応となるのは、はっきりした病変・原因のない「機能性月経困難症」に伴う月経痛です。

漢方製剤を数ヶ月服用しても痛み軽減せず長引く場合は、子宮筋腫や子宮内膜症なども疑われますので、婦人科を受診することが必要でしょう。

## 2. 冷えと月経痛(生理痛)に用いる漢方処方

冷えを伴う月経痛(生理痛)に用いられる主な処方は、加味逍遙散(カミショウヨウサン)、五積散(ゴシヤクサン)、当帰芍薬散(トウキシャクヤクサン)です。

これらには

- ・「頭痛、肌荒れ、腰痛」などの血を改善する駆才血薬(クオケツヤク)や、
- ・「イライラ、不安、気うつ」などの気滞を改善する理気薬(リキヤク)が配合されています。

	駆才血(クオケツ)薬	理気(リキ)薬	共通生薬
加味逍遙散	牡丹皮(ホトタンピ)	柴胡(サイコ)、山梔子(サンシシ)	芍薬(シャクヤク)
五積散	川芎(センキュウ)	厚朴(コウホク)、枳実(キジツ)	当帰(トウキ)
当帰芍薬散	川芎(センキュウ)	川芎(センキュウ)	

冷え症の月経痛に用いられる3処方の主な配合生薬

## 3. 芍薬と当帰…冷えと月経痛(生理痛)に用いられる主要な生薬

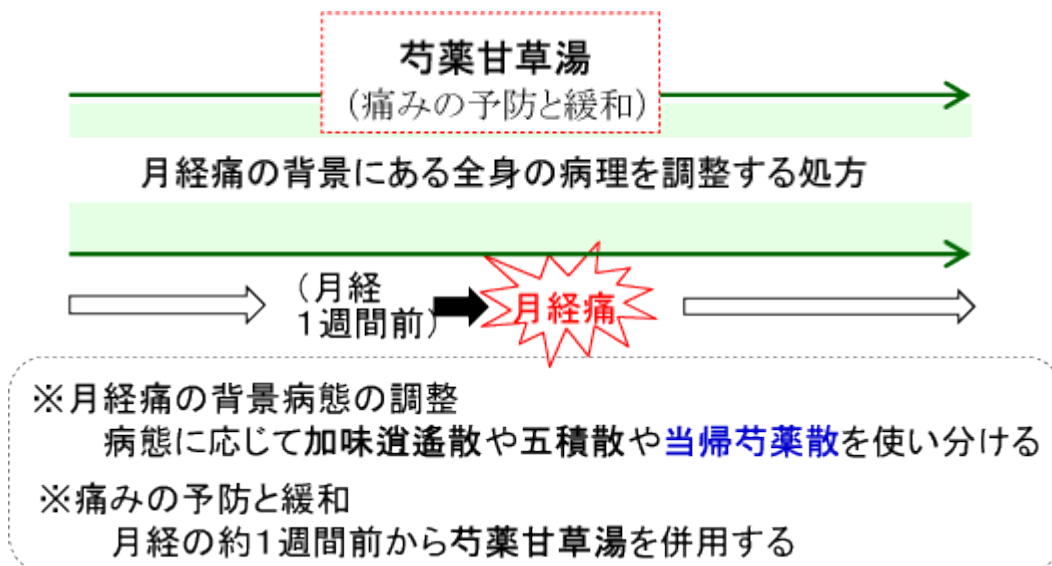
冷えを伴う月経痛(生理痛)に用いられる主な3処方には、芍薬(シャクヤク)と当帰(トウキ)が共通して配合されています。

芍薬と当帰は、冷えを伴う月経痛に対して、血(ケツ)の不足した病態を改善し、月経を整え、痛みを止める重要な生薬です。

## 4. 芍薬甘草湯(シャクヤクカンゾウトウ)…痛みの予防と緩和に併用

月経痛の治療は、月経痛の背景となる全身の病理病態を調整する処方と、痛みを予防緩和する処方を組み合わせます。

月経の約1週間ほど前から、痛みの予防と緩和を目指して芍薬甘草湯(シャクヤクカンゾウトウ)をこれらの処方と併用するとよいでしょう。なお併用処方として、冷えと胃もたれなどの胃腸症状が強い場合は安中散(アンチュウサン)が適する場合もあります。



あるいは、生理周期に合わせた下記の方法も勧められています。

生理周期に併せて下図のように漢方等を使い分けます。これらのお薬は保険適用が可能です。



<p>【月経の3週間前から】 ① 当帰芍薬散</p> <p>骨盤の中の血流を良くし痛みの物質を早く流し、常に半身浴をしている状態にしてくれる漢方です。</p>	<p>【月経の1週間前から】 ② 芍薬甘草湯</p> <p>過剰な子宮の収縮を抑えます。</p>	<p>【月経開始時すぐに】 ③ ロキソニン</p> <p>子宮収縮時に出る痛み、月経痛の原因物質(プロスタグランディン)を抑えます。痛みが出る前に服用するのがポイントです。</p>

## 5. 冷えと月経痛(生理痛)に用いる漢方処方を使いわけ

冷えを伴う月経痛(生理痛)に用いられる主な3処方は、以下のような症状群(病態)を指標にして使い分けられます。

